

鹿児島県霧島市で初めて発見された イカタケ *Aseroe arachnoidea* Fisch. の記録

西 俊昭¹・黒江修一²

¹ 〒 899-5105 霧島市隼人町小田 70-93

² 〒 890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学水産学部

はじめに

2012年9月8日、鹿児島県霧島市隼人町嘉例川のミカン畑(図1-2)で、鹿児島県内では初記録となるイカタケ *Aseroe arachnoidea* Fisch. が発生した(図3)。発見者は、著者の一人である西である。

イカタケは、担子菌門ハラタケ綱スッポントケ目スッポントケ科アカイカタケ属の菌類で、中国・ジャワ・ボルネオ・スマトラ・スリランカ・マレーシア・ニュージーランド・ベトナムなど主に熱帯地方に分布する。国内では、これまで宮崎・大分・高知・香川・鳥取・京都・愛知・宮城(今関・本郷, 1998)、沖縄・広島・愛媛(吉見, 1983)、長崎(中西, 1991)、三重・石川(池田, 1996)、熊本・島根・富山・滋賀(橋屋, 2011)などの各府県で発見されている。

爬虫類の卵に似た白色球形のイカタケ幼菌(図4)の成長は夜半から早朝にかけて始まり、頂部が割れて柄が伸び、やがて腕部が放射状から水平に拡がり、子実体の成熟は午前中に完了することが多い(吉見, 1983)。腕部の付け根には、黒褐色で悪臭を放つ粘液化した基本体がある。胞子はこの粘液に包まれていて、匂いに誘引されたハエなどの昆虫によって運ばれる(今関・本郷, 1998)。

筆者(西)は2012年9月8日発見の日から2013年3月17日まで毎日、イカタケの発生から消失までの状況を観察した。鹿児島県で初めて発生したイカタケについて、いくつかの知見が得られたので報告する。



図1. 鹿児島県で初めて発見されたイカタケの発生地。



図2. もみ殻を撒いたミカン畑に発生したイカタケ。

Nishi, T. and S. Kuroe. 2013. First records of *Aseroe arachnoidea* (Starfish stinkhorn) from Kirishima, Kagoshima Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 39: 207-209.

☑ SK: Faculty of Fisheries, Kagoshima University, 4-50-20 Shimoarata, Kagoshima 890-0056, Japan (e-mail: kuroe@fish.kagoshima-u.ac.jp).



図3. 2012年9月8日に発生したイカタケ.



図4. 爬虫類の卵のように見えるイカタケ幼菌.

■ イカタケ発見の経緯

筆者(西)は昨年まで水田を耕作していたが、イノシシやシカによる被害が連続した。そこで、猟友会に依頼し捕獲罾や猟銃に因る駆除を試みた。しかし、効果がない。考えた末、水田を果樹園にすることにし、2011年10月20日にミカンの幼木を植えた。

畑には農薬を全く散布していない。そのためクオアゲハが産卵し、植栽後1年が経過した若木の葉を幼虫がことごとく食べ尽くす。毎日欠かさず見回り、幼虫を手作業で駆除していた。2011年12月3日には、保水と防寒、雑草抑制のため「もみ殻」をミカンの幼木周辺に厚さ3cm程度撒いた。2012年9月8日9:30、幼虫を駆除していたところ、もみ殻の上に奇妙な形を発見した。イソギンチャクのように数本の大きな触手を伸ばして

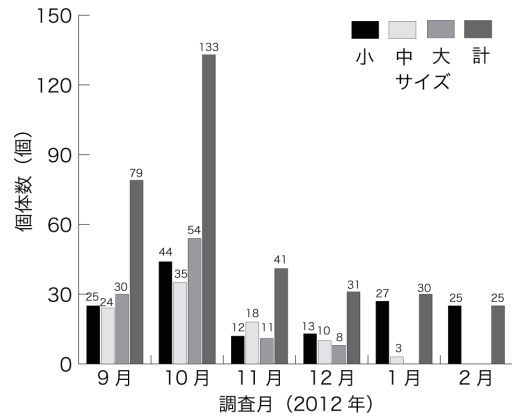


図5. イカタケの月別発生個体数の変化.

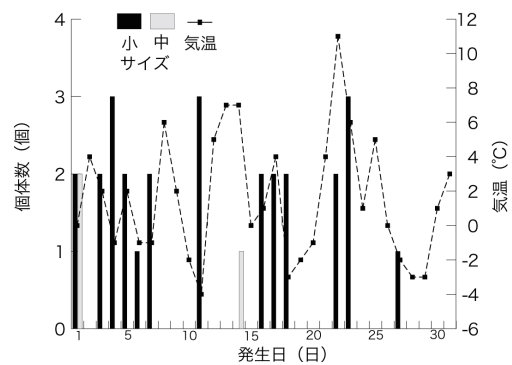


図6. 2013年1月に発生したイカタケの個体数と気温の変化.

いる。近づくと魚が腐ったような臭いがあたり一面に漂う。早速カメラで撮影し自宅の図鑑で確認をした。きのこの仲間のイカタケであった。「珍菌」の発生を地元の新聞社に連絡した。

■ 結果

イカタケの月別発生個体数の変化

発生状況は、毎朝午前8時に確認した。イカタケの大きさは、腕部の端から端までの長さを定規で測定し、小(5cm未満)、中(5-10cm)、大(10cm)の3つに分けて整理した。9月8日以降もイカタケの発生が続き10月にピークを迎えた(図5)。11月からは発生個体数が次第に減少した。そこで、2012年12月1日からは、発生個体数に併せて気温の変化を記録した。1月は、気温の低下とともに中型及び大型個体の発生と総個体数が

減少した(図6)。しかし、気温0～-4℃の中でも2013年2月23日まで発生が続いた。9月8日からの総発生数は339個体であった。

イカタケの腕の数

腕の数は6-16本の報告がある(今関・本郷, 1998)が、今回の観察では8本, 9本, 10本, 11本, 12本の個体のみで、それ以外のものは発生しなかった。腕部の端から端までの長さが最大の個体は21 cmであった。また、掘り出した成熟個体のうち、地表から腕部の付け根までの高さが最大の個体は67 mmであった。

■ まとめ

今回霧島市にイカタケが発生したのは、温度と湿度、それにもみ殻など発生に最適な条件が揃ったからであろう。しかし、近年は畑にもみ殻を撒くことが少なくなった。筆者のミカン畑で今後も

継続発生するのかどうか観察を続けたい。

イカタケは情報不足菌類のため環境省のレッドデータリストには収録されていない。しかし、愛媛県で「絶滅危惧II類(VU)」, 京都府では「絶滅寸前種」, 三重県では「絶滅危惧IB類」に指定されている。本県でも保護についての具体的な検討が望まれる。

■ 引用文献

- 吉見昭一. 1983. カラー版自然と科学 31 おどるキノコ—イカタケのひみつ. 岩崎書店, 東京. 37 pp.
- 今関六也・本郷次男. 1998. 原色日本新菌類図鑑. 保育社, 東京. 218 pp.
- 中西弘樹. 1991. イカタケ長崎に産す. 長崎県生物学会誌, 38/39: 38.
- 池田良幸. 1996. 石川のきのこ図鑑. 北國新聞社出版局, 金沢. 190 pp.
- 橋屋 誠. 2011. 富山県高等菌類資料(9). 富山県中央植物園研究報告, 16: 67-74.